

研究プロジェクト 名称	<b>International Joint Study on Public Health Economics and Value Assessment of Prevention in Pandemic – Lessons learned from COVID-19 and evidence-based recommendations for future crisis</b> (パンデミックにおける公衆衛生経済学と感染症予防の価値に関する国際共同研究–新型コロナ感染症の教訓、および、将来の危機に対する科学的根拠に基づく提言)
研究期間	2021年12月～2024年11月

**研究代表者**

氏名	鈴木寛 (2023年4月～) ※
所属機関・役職	東京大学 公共政策大学院 教授

※前研究代表者：東京大学 公共政策大学院 客員教授 大西昭郎 (2021年12月～2023年3月)

**研究概要**

## 研究計画を立てるに至った問題意識

COVID-19のパンデミックがもたらした社会的インパクトは、広汎なものとなった。結果として、パンデミックへの恐怖が世界を驚愕させたが、まだ出口は不透明なままである。

一方で、世界が経験した最大の問題は科学と政策の溝であり、WHOも例外ではないと言えるだろう。我が国においても政府の専門家会議には、ウイルスや公衆衛生、あるいは呼吸器臨床専門家が招かれたが、その学術的アドバイスは、疫学予測モデルなど古典的な枠にとどまり、実効的な医療と経済のバランスをどう取るべきかへの知見を示すことができていない。また、政府の分科会に招かれた経済学者は、「価値に基づく医療」への価値基準には関する齟齬があるように見え、コロナ対策に経済学的知識を深める政策を提言できていない。

そこで今回の研究の目的として主に次の三項目を対象としたい。

1. コロナパンデミックの教訓の検証
2. 医療と経済のジレンマに対する「価値の齟齬を解消し、その考え方に基づく」解決策の追求
3. ウイズコロナへの社会の抵抗力を高め、来るべき「パンデミック X」に備えの検討を進める

## 具体的な活動

アジア、北米、欧州にISPORの専門家らによるチームを編成し、共同での研究を行うこととする。

## 期待される効果

次のパンデミックの発生の際に科学的な知見に基づいた対応ができるようにするためにも研究結果をシンポジウムや文献にまとめることなどを通じて、政策提言にまとめることを目指す。

図 1. 国際研究チームの協力体制

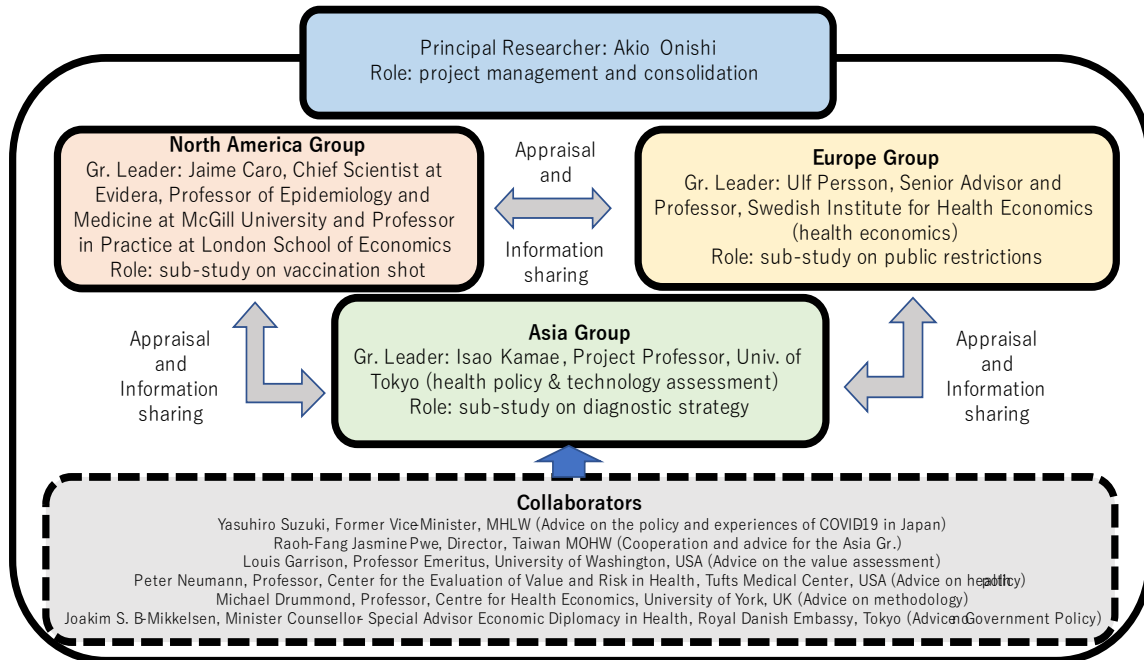


図 2. アウトラインと時間軸

Research Implementation Item	from December 2021 to March 2023	from April 2023 to March 2024	from April 2024 to November 2024
• Review for COVID-19 with respect to health economics and value assessment (All)	↔		
• Study design and Modeling (Each Gr.)	↔		
• Data collection and Pilot analysis (Each Gr.)	↔		
• Full-scale analysis (Each Gr.) and Appraisal (All)		↔	
• Consolidation and Recommendations (All)			↔
• Dissemination of information on the results(All)	↔	↔	↔
• Symposium on the results intermediate in green and final in blue arrow (Selected team members)	↔	↔	↔

